

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>本専攻修士課程では、本学ので定める修業年限以上在学し、次のような能力・資質を備えた上で、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の意見を聴いて、学長が課程修了を認定します。課程修了が認定された者には、修士（食物栄養学）の学位を授与します。</p>		<p>本専攻修士課程ではディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような「高度な専門知識と技能を身に付けた教育研究者、管理栄養士、食品技術者を養成し、社会に貢献する」の方針に基づき、カリキュラム（教育課程）を編成します。</p>	<p>本専攻修士課程は「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な次に掲げる知識や技能、意欲を備えた人を求めます。</p>
1. 知識・理解	1-1	個人や集団を対象とする栄養学に関する高度な専門的知識を身に付けている。	<p>食から健康を追求することによって社会に貢献しようとする職業人を育成することを目標としており、①「食と健康」のより良い関係を理解するための基礎・応用研究を進め、研究開発者や栄養情報担当者などとして活躍しようとする者、②臨床や福祉の現場で管理栄養士として実践的な活躍をしようとする者、③「食育」を含めた集団レベルでの健康増進のあり方を研究しようとする者を受け入れます。</p>
	1-2	食べ物と健康との関係について、高度な専門的知識を身に付けている。	
2. 技能・表現	2-1	臨床や福祉、学校教育の場で必要となる高度な技能・表現力を身に付けている。	<p>食からの健康増進を目的に、機能食品の開発、老化のメカニズムと栄養の関係、生活習慣病の予防と栄養など、食品と栄養について基礎・応用研究を進め、教員、研究開発者、栄養情報担当者などとして活躍できる人材を育成します。また中高（家庭）や栄養教諭の教員免許状（一種）を有する者が、必要な科目を履修し、単位を修得すれば、当該教科にかかわる専修の教員免許が取得できます。</p> <p>〔健康栄養科学コース〕 公衆衛生学や予防医学の理念および疫学の方法論を重視し、主に栄養分野の調査・事業の企画・評価・教育（食育）などに関する専門知識と技術を学び、官公庁・教育機関・民間機関などにおいて、集団レベルの栄養指導法、健康管理システムの構築などの身体活動面の改善に貢献できる実務と研究の両面に精通した人材を育成します。また中高（家庭）や栄養教諭の教員免許状（一種）を有する者が、必要な科目を履修し、単位を修得すれば、当該教科にかかわる専修の教員免許が取得できます。</p> <p>〔実践管理栄養コース〕 管理栄養士の免許を有する者を対象に、研修病院等との連携のもとで、1年間の臨地実習を通して、NST（栄養サポートチーム）や栄養指導に関する能力を育成し、保健医療分野におけるシステムの構築や新しい栄養指導法の開発、妥当性の検証など、資質の高い実践的な専門家、研究者を育成します。 研究指導は、指導教授による臨床研究や基礎実験・思考実験などを通して、研究課題の決定、研究計画の作成への指導助言を行い、修士論文の作成を指導します。</p> <p>いずれのコースにおいても、人々の健康実現を科学的にサポートするという本専攻の理念を具体化するため、初年時には栄養疫学、生物統計学を必修科目として配置し、科学的根拠（エビデンス）についての重要性や作成するための技能を学びます。また教育課程全般を通じて科目教員と大学院生による対話形式での授業展開、さらに論文指導、特別実験、特別実習といった論文指導担当教員と大学院生が直接討論し修士論文を作成するといった教育方法を活用し、大学院生の理解を高めます。 これらの教育課程の評価については修士論文およびその発表会での質疑応答等によって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p> <p>なお標準修業年限を超えて履修することができる長期履修学生制度により、修学上の多様なニーズにも配慮します。</p>
	2-2	健康増進や健康管理を行う上で必要となる高度な技能・表現力を身に付けている。	
	2-3	食品開発や食品管理などで必要となる高度な技能・表現力を身に付けている。	
	2-4	ヒトと栄養との関係を研究するために必要となる高度な技能・表現力を身に付けている。	
3. 思考・判断	3-1	健康や栄養・食に関する高度かつ専門的な情報を自ら収集する能力を身に付けている。	<p>〔実践管理栄養コース〕 管理栄養士の免許を有する者を対象に、研修病院等との連携のもとで、1年間の臨地実習を通して、NST（栄養サポートチーム）や栄養指導に関する能力を育成し、保健医療分野におけるシステムの構築や新しい栄養指導法の開発、妥当性の検証など、資質の高い実践的な専門家、研究者を育成します。 研究指導は、指導教授による臨床研究や基礎実験・思考実験などを通して、研究課題の決定、研究計画の作成への指導助言を行い、修士論文の作成を指導します。</p> <p>いずれのコースにおいても、人々の健康実現を科学的にサポートするという本専攻の理念を具体化するため、初年時には栄養疫学、生物統計学を必修科目として配置し、科学的根拠（エビデンス）についての重要性や作成するための技能を学びます。また教育課程全般を通じて科目教員と大学院生による対話形式での授業展開、さらに論文指導、特別実験、特別実習といった論文指導担当教員と大学院生が直接討論し修士論文を作成するといった教育方法を活用し、大学院生の理解を高めます。 これらの教育課程の評価については修士論文およびその発表会での質疑応答等によって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p> <p>なお標準修業年限を超えて履修することができる長期履修学生制度により、修学上の多様なニーズにも配慮します。</p>
	3-2	情報収集によって発見された課題を自ら解決できる能力を身に付けている。	
	3-3	科学的根拠に基づく健康・栄養課題解決の能力を身に付けている。	
4. 態度・志向性	4-1	個人や社会が抱える様々な健康栄養問題を積極的に学習する態度を身に付けている。	<p>研究指導は、指導教授による臨床研究や基礎実験・思考実験などを通して、研究課題の決定、研究計画の作成への指導助言を行い、修士論文の作成を指導します。</p> <p>いずれのコースにおいても、人々の健康実現を科学的にサポートするという本専攻の理念を具体化するため、初年時には栄養疫学、生物統計学を必修科目として配置し、科学的根拠（エビデンス）についての重要性や作成するための技能を学びます。また教育課程全般を通じて科目教員と大学院生による対話形式での授業展開、さらに論文指導、特別実験、特別実習といった論文指導担当教員と大学院生が直接討論し修士論文を作成するといった教育方法を活用し、大学院生の理解を高めます。 これらの教育課程の評価については修士論文およびその発表会での質疑応答等によって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p> <p>なお標準修業年限を超えて履修することができる長期履修学生制度により、修学上の多様なニーズにも配慮します。</p>
	4-2	食物栄養学の高度な専門的学習を通して、社会に貢献する自覚を身に付けている。	
5. 統合的能力	5-1	高度な専門的知識・技術の統合を図り、管理栄養士として社会に貢献できる能力を身に付けている。	<p>研究指導は、指導教授による臨床研究や基礎実験・思考実験などを通して、研究課題の決定、研究計画の作成への指導助言を行い、修士論文の作成を指導します。</p> <p>いずれのコースにおいても、人々の健康実現を科学的にサポートするという本専攻の理念を具体化するため、初年時には栄養疫学、生物統計学を必修科目として配置し、科学的根拠（エビデンス）についての重要性や作成するための技能を学びます。また教育課程全般を通じて科目教員と大学院生による対話形式での授業展開、さらに論文指導、特別実験、特別実習といった論文指導担当教員と大学院生が直接討論し修士論文を作成するといった教育方法を活用し、大学院生の理解を高めます。 これらの教育課程の評価については修士論文およびその発表会での質疑応答等によって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p> <p>なお標準修業年限を超えて履修することができる長期履修学生制度により、修学上の多様なニーズにも配慮します。</p>
	5-2	社会における指導者として必要なコミュニケーション能力を身に付けている。	
	5-3	栄養・食と健康に関する様々な問題について、指導的立場から解決する高度な能力を身に付けている。	
	5-4	社会貢献のための実行力を身に付けている。	